



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業 令和7年度IDCL(長期)研修の様子を紹介



(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部 上級研究員 佐藤 瞳

JIHSでは、厚生労働省の委託事業として「感染症危機管理リーダーシップ研修」を実施しています。今回は、令和7年4月に開講した長期研修の締めくくりとなる、2月・3月の様子を紹介します。

2月 机上演習

本研修では、感染症危機時の判断や意思決定のプロセスを実践的に学ぶことを目的として、机上演習を行っています。令和8年2月27日は、「ワンヘルスの視点に基づく感染症対策」と、「感染症危機管理におけるフィロソフィー」について講義をまじえ机上演習を行い、ワンヘルスやリーダーシップを発揮する立場としての決断力等について深く学ぶ機会となりました。

ワンヘルスとは

「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を、互いに影響し支え合っている「ひとつの健康」と捉え、全体として調和を図りながら守っていくという考え方は、

講師の進行のもと、研修生はワンヘルスの視点に基づく「人獣共通感染症」の関係図を作成するグループワークを実施しましたほか、医療の逼迫と経済活動の維持という板挟みの状況下で、「まん延防止等重点措置」を解除すべきか延長すべきか、リーダーシップを発揮して決断を下す演習を行いました。



ワンヘルスの視点から見た
人獣共通感染症
<https://www.fihes.pref.fukuoka.jp/>



講師：白石博昭先生

講師：
白石博昭先生（福岡県保健医療介護部 理事（ワンヘルス担当）兼 福岡県保健環境研究所所長）
田中義人先生（福岡県保健環境研究所 副所長）



講師：田中義人先生

参加した研修生からは「決断に迷う内容で、頭を使って考える訓練になった」「科学的なデータだけでは答えが出ない場面だからこそ、リーダー自身の『フィロソフィー（基本軸や心構え）』が問われることを学んだ」といった声が寄せられました。

3月 閉会式



長期研修生は座学や机上演習に加え、関係機関での実践研修（OJT）を通じ、危機管理の最前線を経験しました。限られた時間や情報の中で最善の意思決定を下す判断力や、多様な関係機関との調整を図る力など、有事の際に求められる分野横断的なスキルを実践的に学びました。

理事長からは、研修で構築したネットワークが困難な局面での大きな支えになると述べられました。本研修で培った多角的な視点や現場を動かす力を武器に、リーダーシップを発揮する人材としての各自治体での活躍と、その知見が日本の感染症危機管理体制の強化に寄与することへの期待が寄せられました。